

北東アジアおよび国際石油市場の展望と課題

- OPEC 事務局との第 15 回定期意見交換 -

(財)日本エネルギー経済研究所
総合エネルギー動向分析室長 小山堅
海外派遣(オックスフォードエネルギー研究所) 石田博之
産業研究ユニット研究主幹 大住政孝
計量分析ユニット兼総合エネルギー動向分析室研究員 小宮山涼一

はじめに

(財)日本エネルギー経済研究所は、1987 年以来 OPEC 事務局との定期意見交換を継続的に実施している¹。その一環として、2004 年 11 月 30 日に第 15 回の定期意見交換会がオーストリア・ウィーンの OPEC 事務局において開催された。今回の会議には、新たに中国から、そして昨年に引き続き韓国からの参加者が加わり、日本、韓国、中国の北東アジア各国および国際石油市場の課題・展望について、活発な意見交換が行われた²。以下ではその概要を紹介する。

1. 国際石油市場の見通しについて

OPEC 側からは、短期および長期の石油市場見通しについて、2 つのプレゼンテーションが行われた³。OPEC 事務局は、最近の世界的な原油価格高騰⁴への対応については、

¹ 2003 年の定期意見交換会の内容については、小山堅「アジアおよび国際石油市場の展望と課題 - OPEC 事務局との第 14 回定期意見交換 -」(日本エネルギー経済研究所、ホームページ、2003 年 12 月掲載)を参照。

² OPEC 事務局からは、Dr. Adnan Shihab-Eldin(Director, Research Division)、Mr. Mohamed Hamel (Head, Energy Studies Department)、Mr. Mohamed Alipour Jeddi (Head, Petroleum Market Analysis Department)をはじめ約 20 名、韓国からは、韓国エネルギー経済研究院 (KEEI) の Mr. Moon-Bae Lee (Research Fellow, Department of Energy Information Analysis)、中国からは、中国能源研究所の Ms. Xiaoli Liu(現在、アジア太平洋エネルギー研究センター)、当研究所からは小山堅(総合エネルギー動向分析室長)、大住政孝(産業研究ユニット研究主幹)、小宮山涼一(計量分析ユニット兼総合エネルギー動向分析室研究員)、石田博之(現在、オックスフォードエネルギー研究所へ派遣中)が参加した。

³ 短期見通しについては、Mohamed Alipour Jeddi, "Highlights of the Oil Market Situation"、長期見通しについては、Mohamed Hamel, "Oil Outlook to 2025"のプレゼンテーションが行われた。

⁴ OPEC 事務局は、原油価格高騰の背景として、精製設備のボトルネック、軽質油の需給逼迫、OPEC の余剰生産能力の低下、地政学的要因、先物市場における投機的行動を挙げた。そして最近の石油先物市場の高値である 50 ドル/バレルの内、30 ドル程度が需給ファンダメンタルズ、10~15 ドルが投機的要因を背景にしているとの見方を示した。

産油国として国際石油市場安定化に向けて十分な石油生産を行っており、また多くの OPEC 加盟国がさらに生産能力を拡張する見通しであるとの展望を示唆した。また 2005 年の国際石油市場は、需要面では中国をはじめとした世界経済の減速に伴う需要の伸びの鈍化、供給面では非 OPEC 生産が堅調に増加するとの見通しから、需給緩和の方向で推移し、価格低下の可能性を指摘した⁵。また、今後 OPEC の生産能力は政府計画に基づき着実に増強され、その結果、最近の油価高騰の一要因であると指摘されている余剰生産能力も増加するとの見方を示した。

しかし、下流部門における石油需給逼迫⁶、地政学的要因、先物市場における投機的行動が引き続き今後の原油価格の動向に与える影響は大きく、OPEC は引き続き、産消両国にとって適切な価格を維持すべく、国際石油市場安定化に努めるとの認識を示した。

長期見通しに関しては、OPEC 市場シェアは長期的に生産コストの経済性を背景に増大すると予測する一方で、石油市場を取り巻く国際情勢の不確実性は依然として大きく、OPEC による石油需給・価格の安定化⁸のためには一層の努力が必要であるとの認識を示した。特に世界の石油需要にダウンスайдリスクが存在するとの見通しを示し⁹、これに伴い、石油の安定供給を維持するための上流投資にも大きな不確実性が存在するため¹⁰、十分な余剰生産能力の確保など、適切で慎重な投資計画の策定がより一層重要になると指摘した。

2 . 北東アジアの石油市場動向、エネルギー協力の可能性について

こうした状況下、OPEC にとって、中国をはじめとしたアジアの石油需要・市場動向は今後の短期的、長期的な OPEC 生産・輸出量を左右する需要サイドにおける最大の関心事となっている。そこで、日本の長期エネルギー需給見通し¹¹、KEEI による韓国の

⁵ OPEC 事務局の最新見通しの前提は、2005 年の石油需要の増加：150 万 BD、非 OPEC 生産：120 万 BD、OPEC の NGL：20 万 BD である。この結果、2005 年の対 OPEC 需要はほぼ横ばいで推移する見通しである。

⁶ 特に重質油の精製設備容量拡張に向けた投資の重要性が指摘された。

⁷ OPEC の長期見通しによれば、基準ケースでは OPEC 市場シェアは 2010 年の 38.4% から 2025 年には 50.9% にまで増大すると予測されている。

⁸ 原油価格の低下は、消費国にとっては望ましいが、産油国の石油収入の減少、財政逼迫を意味し、高騰の場合は、産油国にとって収入増加の一方、世界経済への影響、非 OPEC 生産増加、代替エネルギー導入促進など OPEC にとっては負の影響が発生する。このため OPEC プライスバンドは依然として産消両国における適切な価格のベンチマークとして重要な機能を果たすとの認識が OPEC 事務局により示された。

⁹ OPEC 事務局は需要のダウンスайдリスク要因として、経済成長(2003 年～2025 年までの世界の経済成長率(PPP ベース)はレファレンスケースで 3.6%、経済低成長ケースで 2.6%)、省エネの推進、京都議定書の遵守にむけた各国の環境政策の強化を指摘している。

¹⁰ 2010 年における累積投資額は、レファレンスケースで 950 億ドル、経済低成長ケースで 700 億ドルとなり、両ケース間には 250 億ドルもの投資リスクが存在することが OPEC 事務局により示された。

¹¹ 当研究所からは、日本の長期エネルギー需給見通しとして Ryoichi Komiyama, “Long-term Japan’s Oil/Energy Outlook for 2030”のプレゼンテーションが行われた。

石油市場見通し¹²、ERI による中国の石油市場見通し¹³、等に関するプレゼンテーションには前回以上に OPEC 事務局側から多くの熱心な質問やコメントが寄せられた。中でも意見交換の中心となったのは、わが国のエネルギー需給に係る地球温暖化問題に対する対応、中国や韓国における石油需要、石油備蓄政策動向とその石油市場への影響、等の点であった。意見交換を通じて、特に OPEC 事務局にとって、世界の石油需要の牽引的役割を担いつつある中国のエネルギー・経済動向が、目下最大の関心事であることがうかがえた。

なお、前回の定期意見交換において議題の一つとして取り上げられたアジアのエネルギー協力に関しては、地域としてエネルギー安全保障問題解決に向けて協力することの重要性が示された¹⁴。OPEC 側は消費国サイドによるエネルギー・環境政策が将来のエネルギー選択やエネルギー市場・需給構造に様々な影響を及ぼすことを認識しており、アジア諸国のエネルギー・環境政策展開や地域協力の動向にも重大な関心を払っている。特に、アジアと中東 OPEC 産油国との対話・協力の重要性に関して、OPEC にとって最重要市場へと成長しつつある中国、インドをはじめとするアジア諸国との相互理解・相互依存関係強化がますます重要になるとの認識が示された。

今回の定期意見交換会においては、最近の原油価格高騰などを背景に、今後の石油市場の動向が特に注目される中、現在脚光を浴びている中国からの参加者が新たに加わり、前回以上にタイムリーで、密度の濃い非常に率直なディスカッションが行われたように考えられる。これまでの定期意見交換が開始された当初に比べると、議論の深まり・率直な意見交換という意味において着実な前進が見られている。OPEC 事務局側も当研究所との定期意見交換を非常に高く評価しており、過去 17 年間にわたる意見交換の積重ねが、相互の信頼関係の醸成に繋がってきたものと考えられる。今後とも、国際エネルギー・石油情勢に関する理解・分析の向上、アジア側からの意見発信・交換の場として、この OPEC 事務局との定期意見交換の場をより発展させていくことが重要である。

以上

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp

¹² 韓国の見通しについては Moon-Bae Lee, “Prospects for the Energy Demand in Korea” のプレゼンテーションが行われた。

¹³ 中国の見通しについては Xiaoli Liu, “Outlook for the Oil Market in China” のプレゼンテーションが行われた。

¹⁴ この問題については、Hiroyuki Ishida, “Energy Security and Regional Cooperation” のプレゼンテーションが行われた。